

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3324205号
(P3324205)

(45)発行日 平成14年9月17日(2002.9.17)

(24)登録日 平成14年7月5日(2002.7.5)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

A 0 1 G 9/02
1/06

6 1 0

A 0 1 G 9/02
1/06

6 1 0 Z
Z

請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-158637

(22)出願日 平成5年6月29日(1993.6.29)

(65)公開番号 特開平7-8117

(43)公開日 平成7年1月13日(1995.1.13)

審査請求日 平成12年6月28日(2000.6.28)

(73)特許権者 000000125

井関農機株式会社

愛媛県松山市馬木町700番地

(72)発明者 大月 晴樹

愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地 井関農
機株式会社 技術部内

審査官 坂田 誠

(56)参考文献 実開 昭61-118230 (J P, U)

実公 昭44-15324 (J P, Y 1)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B名)

A01G 9/02

A01G 1/06

(54)【発明の名称】 接ぎ木苗容器

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】接ぎ木苗1を育苗する容器2とこの容器2の接ぎ木苗側部をほぼ密閉して被せることができ且つ透視し得る蓋3とを備え、該蓋3に上面から側面にかけて延びる複数の凹状の溝9を設け、該溝9には蓋3の上面中心部から側端に向けて勾配Kを設けてなる接ぎ木苗容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、手作業又は機械作業により製造した接ぎ木苗を育苗する接ぎ木苗容器に関する。

【0002】

【従来の技術】接ぎ木を終えた接ぎ木苗を容器に移植している。

2

【0003】

【この発明が解決しようとする課題】しかしながら、接ぎ木苗を容器に移植した後速やかに順化室に移動しないと接ぎ木苗が枯死することがある。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明は、接ぎ木苗1を育苗する容器2とこの容器2の接ぎ木苗側部をほぼ密閉して被せることができ且つ透視し得る蓋3とを備え、該蓋3に上面から側面にかけて延びる複数の凹状の溝9を設け、該溝9には蓋3の上面中心部から側端に向けて勾配Kを設けてなる接ぎ木苗容器の構成とする。

【0005】

【作用】手作業又は機械作業により製造した接ぎ木苗1を培土等を備えた接ぎ木苗容器に移植する。つぎに、蓋3を接ぎ木苗1を覆うように容器2に被せる。蓋3には

上面から側面にかけて延びる複数の凹状の溝 9 が設けられているので、蓋 3 の強度を高めることができると共に、蓋 3 の上面の水を溝 9 に沿って排水案内し得る。そして、溝 9 には蓋 3 の上面中心部から側端に向けて勾配 K が設けられているので、容器を上下に段積みして下側の接ぎ木苗容器 4 の蓋 3 にへこみを生じても水の排出を円滑にし水の滞留を防止し得る。

【0006】

【効果】移植した接ぎ木苗を収容する接ぎ木苗容器内の湿度を保持できるので、移植してから順化室に収容するまでの時間を長く取れ移植作業効率を向上する。そして、蓋 3 は透視し得るので、苗に光を当てることができ順化中の発根促進、徒長防止等が可能である。また、蓋 3 には上面から側面にかけて延びる複数の凹状の溝 9 が設けられ、該溝 9 には蓋 3 の上面中心部から側端に向けて勾配 K が設けられているので、蓋 3 の強度を高めることができると共に、蓋 3 の上面の水を溝 9 に沿って良好に排水でき、また、容器を上下に段積みしたとき、下側の接ぎ木苗容器 4 の蓋 3 にへこみを生じても水の排出を円滑にし容器上面に水が滞留しにくい。

【0007】

【実施例】以下、この発明の一実施例を図面に基づいて説明する。まず、その構成について説明すると、接ぎ木苗 1 は所定位置を切断した穂木と台木を接合している。接ぎ木苗容器 4 は外面が白色系の容器 2 とこの容器 2 をほぼ密閉して被せることのできる蓋 3 とを備えている。そして、該容器 2 は平面視形状で且つ前後及び左右方向に所定間隔置いて整列し底面に排水孔 6 を有するポット 5 を設けている。なお、該各ポット 5 には水分を含ませた培土又は人工培土 7 を供給している。

【0008】そして、蓋 3 は前記容器 2 にほぼ密閉して被せることができると共にポット 5 とは反対側に張り出し培土 7 に移植した接ぎ木苗 1 を収容する室 8 を設けている。また、該蓋 3 は透視可能な素材で形成し、上面及び前後面並びに左右面にかけて平面視格子状に凹状の溝 9 を設けている。そして、該溝 9 により全周又は一部を囲まれた蓋 3 の面に凹凸部 10 を設けている。また、前記溝 9 は蓋 3 の前後及び左右の中心部から側端に向けて勾配 K を設けていると共に蓋 3 の前・後の面及び左・右の面に設けている溝 9 の先端を蓋 3 を容器 2 に被せたとき容器 2 の上面に接触するかまたはその近傍に位置する位置に設けている。なお、該溝 9 は先端部の深さを小さく設けている。

【0009】図 4 において、11 は順化室 12 に設けた照明具（実施例では蛍光灯を使用している）であり、この順化室 12 に接ぎ木苗容器 4 を段積みしている。そして、容器 2 を白色系にした場合と黒色系にした場合で照度を測定すると、表 1 のように黒色系が白色系の約 4.5 分の 1 であった。

【0010】

【表 1】

		A	B	C
照度	白	350	320	300
lux×10	黒		320	67

照度測定例

10 【0011】つぎに、その作用について説明する。まず、容器 2 のポット 5 に水分を含んでいる培土 7 を所定量供給し表面を均平板で平らにならす。そして、手作業又は機械作業により製造した穂木と台木からなる接ぎ木苗 1 の基部を各ポット 5 の培土に移植（手作業、機械作業何れでもよい）する。

【0012】この各ポット 5 への接ぎ木苗 1 の移植作業を終えると、蓋 3 を容器 2 の所定位置に被せる。以下、つづいて同様の作業を行なう。このように、接ぎ木苗 1 を移植後容器 2 を蓋 3 を被せるものであるから、接ぎ木苗容器 4 の内部の湿度を保持でき蓋 3 を被せない場合よりも長時間放置できる。従って、容器 2 への接ぎ木苗 1 の移植作業能率を高め得る。また、接ぎ木苗 1 を順化する順化室 12 での加湿が不要になるので、順化室 12 のコストダウンを行い得る。

【0013】つぎに、接ぎ木苗容器 4 を順化室 12 に段積みし照明具 11 を点灯して順化作業を行なう。この段積みをした場合においても、蓋 3 の上面に凹凸部 10 を設けているので、光を乱反射させ容器内の接ぎ木苗 1 に光を多く当てることができ順化を促進する。また、蓋 3 の上面の強度を高めることができると共に上側の容器 2 の排水孔 6 から出た水を分水でき一個所に落下するのを防止し得る。その上、ポット 5 の底面を塞がないので排水孔 6 からの水の排出も円滑になる。そして、蓋 3 を透視し得る素材で形成しているので、順化中の接ぎ木苗 1 の発根を促進すると共に徒長を防止し得る。

【0014】また、蓋 3 には溝 9 を格子状に設けているので蓋 3 の強度を高めることができると共に排水孔 6 から排出した水をこの溝 9 に沿って排水案内し得る。そして、この溝 9 は勾配 K を設けているので、接ぎ木苗容器 4 を段積みして下側の接ぎ木苗容器 4 の蓋 3 にへこみを生じても水の排出を円滑にし水の滞留を防止し得る。そして、溝 9 の突出側部が容器 2 の上面に受け止められてストッパーの機能を有するので、重量のある上側の接ぎ木苗容器 4 を支えることができる。そして、容器 2 を白色系にすることにより、下側の接ぎ木苗容器 4 の蓋 3 の内側空間部の照度の著しい低下を防止し光を有効に利用し得る。また、接ぎ木苗 1 の養生中は太陽光により地温が上昇することもなく徒長を防ぐことができる。

【0015】そして、順化作業を終え容器内を換気する場合において、蓋 3 に穴をあける手段では手間がかか

り、蓋3を全部開ける手段では接ぎ木苗1が枯れてしまう。この発明では、深さの大きい溝9まで容器2の上面が当たるように蓋3を容器2に向けて押し込む。すると、容器2と蓋3の間に、小さな隙間を形成することができ換気効率を高めながらも接ぎ木苗1の枯死を防止し得る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 一部破断した接ぎ木苗容器の正面図。

【図2】 接ぎ木苗容器の平面図。

*【図3】 一部切断した接ぎ木苗容器の側面面図。

【図4】 順化室に接ぎ木苗容器の断積図。

【符号の説明】

1 接ぎ木苗

2 容器

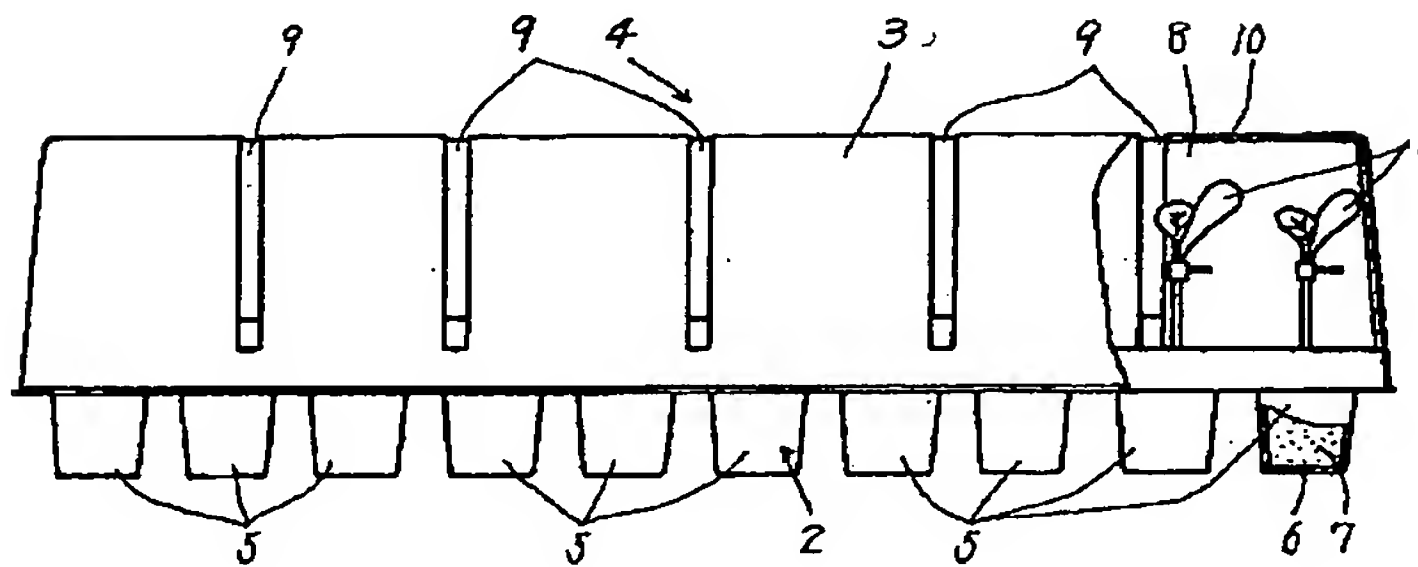
3 蓋

9 溝

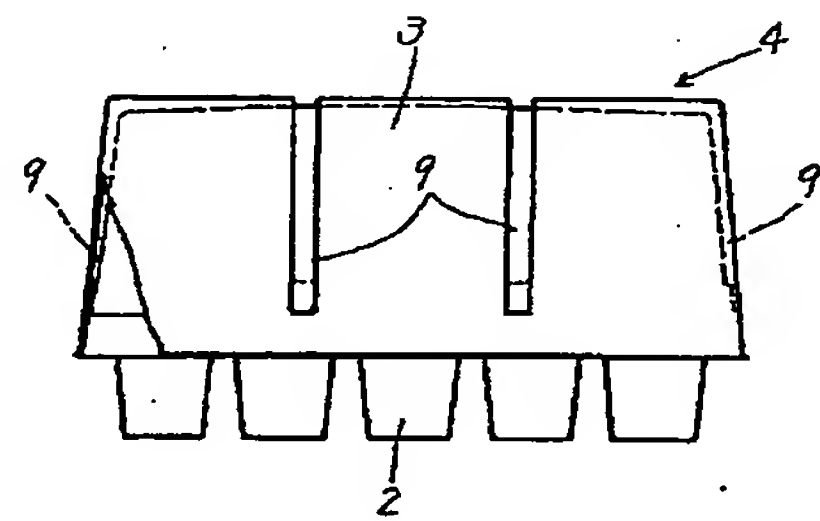
K 勾配

*

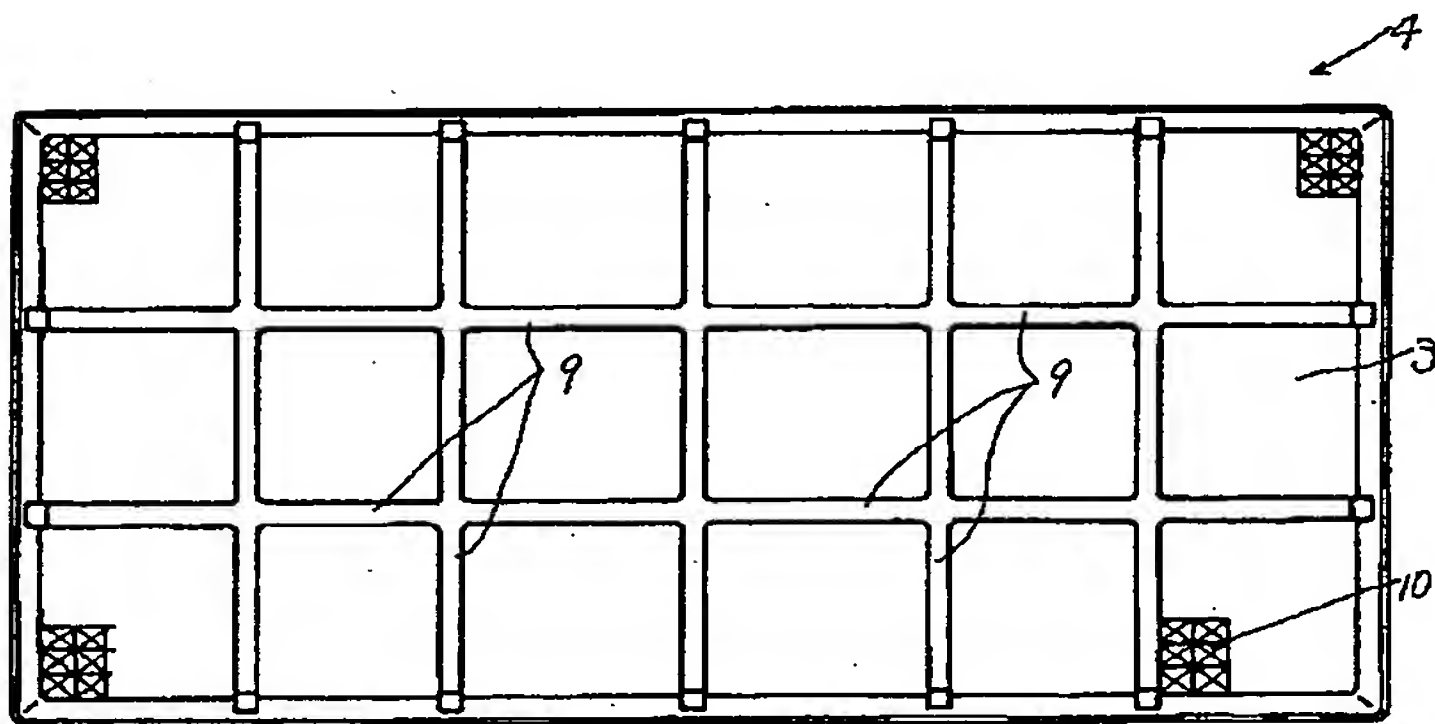
【図1】



【図3】



【図2】



(4)

特許3324205

【図4】

